



**スタートアップ振興に向けた
経団連の取り組み
- Keidanren for Startups -**

2025年10月17日

**一般社団法人 日本経済団体連合会
産業技術本部上席主幹 近藤秀怜**

スタートアップ委員会

- Society 5.0に向けては、ビジョンドリブンで課題解決や価値創造に挑戦する**スタートアップ**を振興し、産業構造の転換や産業の新陳代謝を図っていくことが不可欠。
- **スタートアップ委員会**は、**Society 5.0を担う企業群であるスタートアップの振興**に向けて、2019年5月に発足。

主な活動

活動1. スタートアップ振興のための制度整備

- 提言「スタートアップ躍進ビジョン～10X10Xを目指して～」
- 提言「Science to Startup」

活動2. 大企業の行動変容

- スタートアップフレンドリースコアリングの実施

活動3. スタートアップと大企業の連携促進

- Keidanren Innovation Crossing (KIX) の定期開催
- 経団連Startup Slackの運営

スタートアップ委員会

Committee on Startups



委員長
南場 智子
NAMBA Tomoko
ディー・エヌ・エー会長



委員長
高橋 誠
TAKAHASHI Makoto
KDDI会長



委員長
出雲 充
IZUMO Mitsuru
ユーグレナ社長

企画部会

Sub-committee on Startups



部会長
齊藤 昇
SAITO Noboru
BIPROGY社長

委員

事業会社のオープンイノベーション・新規事業担当の執行役員以上（～社長・会長）、スタートアップの役員以上に限定

活動

役員必須のハイレベルなネットワーキングイベント「**Keidanren Innovation Crossing (KIX)**」の開催、スタートアップ振興政策の議論等を行う

スタートアップ政策タスクフォース

Taskforce on Startup Policy



座長
出雲 充
IZUMO Mitsuru
ユーグレナ社長



座長代理
松本 勝
MATSUMOTO Masaru
VISITS Technologies CEO

委員

スタートアップに限定（非会員も参加可）
*会員のスタートアップから推薦を受け、かつ、座長が認めた場合に限る

活動

ワンストップで様々な政策テーマに関してスタートアップとしての意見を取りまとめる

スタートアップ躍進ビジョン

Why Startup ?

社会課題の解決やイノベーションを生む
仕組みとして最も優れたスキームの一つ

昨今の状況

- わが国においても10年前と比較すると起業数も総投資額も大幅に増大、制度面も徐々に環境整備も進む
- スタートアップ先進国はその間にもさらにスタートアップ振興施策を打ち立てている (Faster-moving target)

2022年3月15日

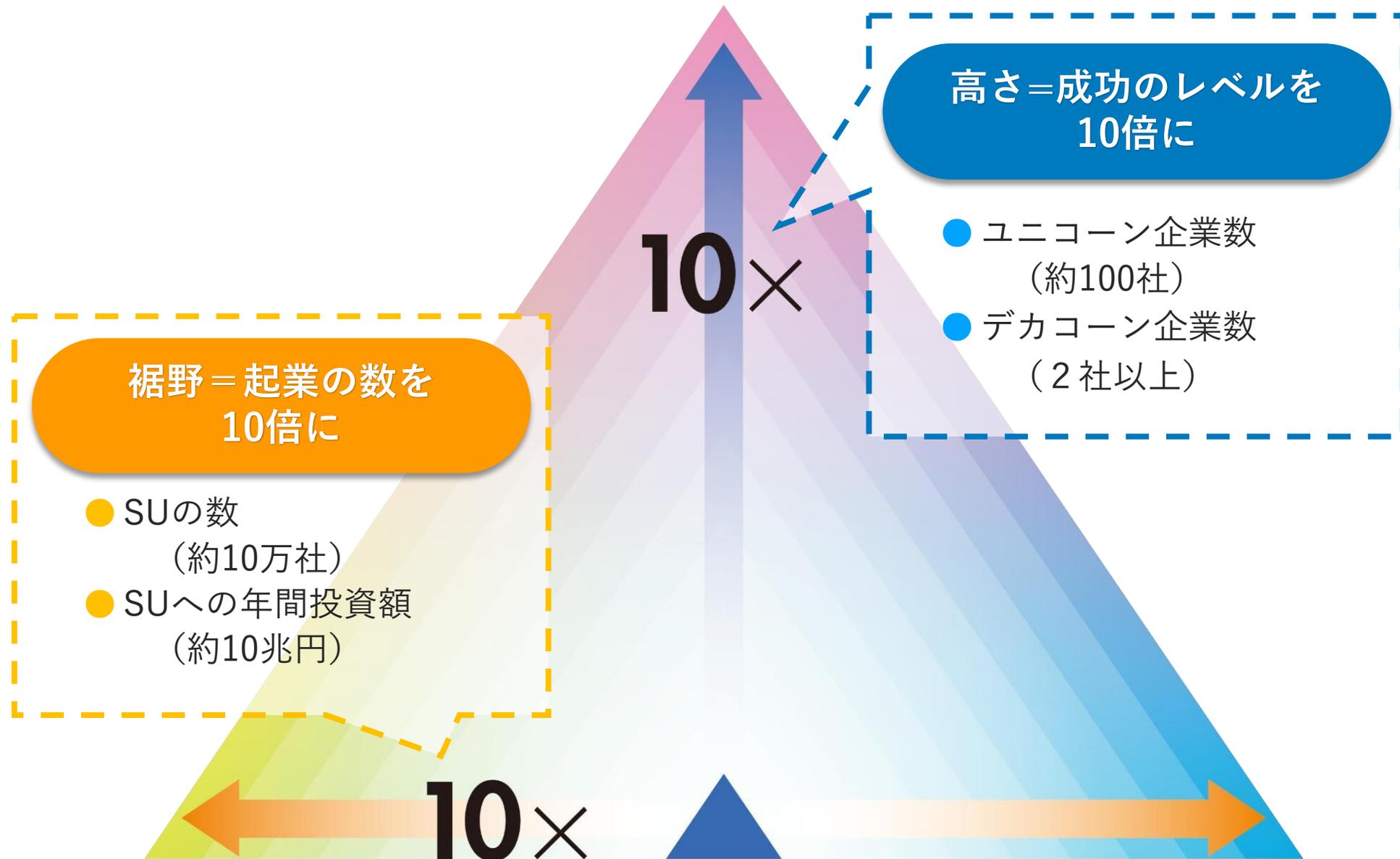
提言「スタートアップ躍進ビジョン」を公表

日本経済全体を浮揚させ、再度競争力を取り戻すための最も重要な課題として

スタートアップエコシステムの抜本的強化を提言

景気変動に関わらず、**官民を挙げて必要な施策を一斉に、迅速に、力強く推進**

2027年の目標：10X10Xの世界へ



躍進ビジョンが大きな動きを創出

2022年3月

経団連「スタートアップ躍進ビジョン」

2022年6月

「骨太方針2022」 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」

自民党「スタートアップ育成5か年計画に向けた提言」

2022年11月

「スタートアップ育成5か年計画」

東京都「Global Innovation with STARTUPS」

2023年5月

自民党「『スタートアップ育成5か年計画』の実現に向けた提言」

2023年6月

「骨太方針」 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023年改訂版」

2024年6月

「骨太方針」 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024年改訂版」

2024年9月

経団連「Science to Startup」

10X10X実現に向けたアクションの3本柱

提言活動

- スタートアップ委員会・政策タスクフォースの開催
- 政府施策に関する**レビューブックの発行**
- **提言「Science to Startup」**
- 経団連 Startup Summitの開催
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 経済産業省研究開発・イノベーション小委員会をはじめとする政府関係会合への意見発出
- 各地スタートアップとの意見交換

大企業の行動変容

- **スタートアップフレンドリースコアリング**の継続実施
- CVCネットワークキング
- 各種勉強会の開催（カーブアウト、ベンチャークライアントモデル（VCM）等）

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催（2019年～、延べスタートアップ355社登壇）
- 「**経団連 Startup Slack**」の運営

提言、レビューブック、スコアリングの結果等は経団連HPに全文を掲載しています

10X10X実現に向けたアクションの3本柱

提言活動

- スタートアップ委員会・政策タスクフォースの開催
- 政府施策に関する**レビューブックの発行**
- **提言「Science to Startup」**
- 経団連 Startup Summitの開催
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 経済産業省研究開発・イノベーション小委員会をはじめとする政府関係会合への意見発出
- 各地スタートアップとの意見交換

大企業の行動変容

- スタートアップフレンドリースコアリングの継続実施
- CVCネットワークキング
- 各種勉強会の開催（カーブアウト、ベンチャークライアントモデル（VCM）等）

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催（2019年～、延べスタートアップ355社登壇）
- 「**経団連 Startup Slack**」の運営

提言、レビューブック、スコアリングの結果等は経団連HPに全文を掲載しています

躍進ビジョンレビューブック2025を発行

- 躍進ビジョンの実現に向けて、2023年以降毎年、10X10Xの実現に向けた政策の実現状況や効果、残された課題をまとめたレビューブックを発行。
- 政府施策によるモメンタムの形成により裾野は着実に拡大。厳しい市況が続き資金調達額は横ばいだが、そうした中でも**大型の調達案件が増加**。
- **ユニコーン企業数は年々増加しているが、高さを強力に引き上げるにはさらなる打ち手が必要。**

(参考)

1社あたりの資金調達額傾向

	平均値	中央値
2021	2.6億円	4,610万円
2023	2.5億円	5,000万円
2024	3.1億円	7,760万円

裾野 = 起業の数を10倍に

	スタートアップ数	年間投資額
2021	16,100社	8,827億円
2023	22,000社	8,139億円
2024	25,000社	7,793億円

高さ = 成功のレベルを10倍に

	ユニコーン企業数	デカコーン企業数
2021	6社	0社
2023	7社	0社
2024	8社	0社

× 1.6

× 1.3

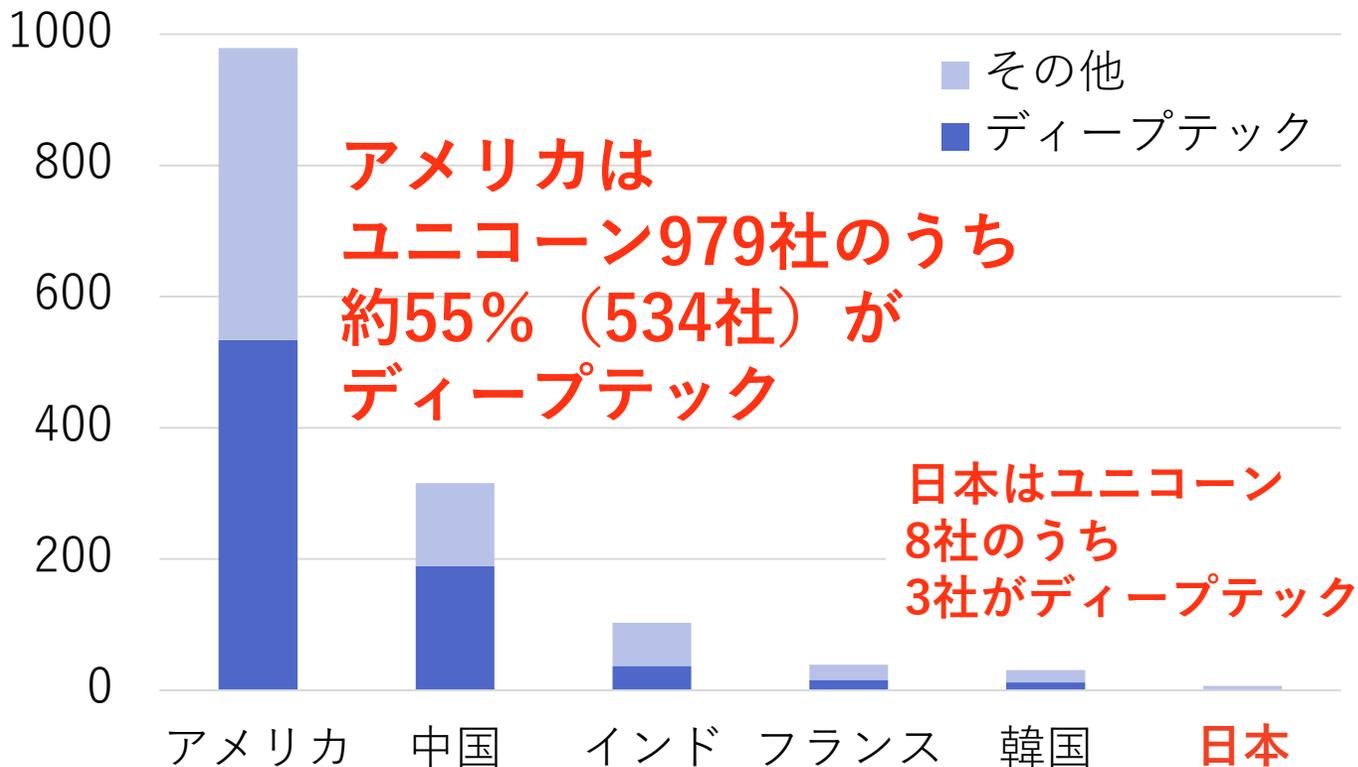
(出所)

スタートアップ数 UZABASE「スピーダ」
 フォースタートアップス「STARTUP DB」
 年間投資額 INITIAL「Japan Startup Finance 2024」
 ユニコーン企業数 CB Insights

提言「Science to Startup」

- 高さを引き上げるためのカギは、ユニコーン級に成長するポテンシャルを秘めるディープテック。
- 日本の研究力の低下に対する指摘もあるが、世界に勝てる研究は多数存在。しかしその強みをスタートアップを通じて社会実装するパスが未整備。
- そこで、**スタートアップを通じた高水準な研究の社会実装 = Science to Startup**の実現に必要な施策を提言。

ユニコーン企業数に占めるディープテック企業数の割合



Science to Startupのパス整備に向けた具体的政策

1. 大学の知の能動的な掘り起こし
(プロフェッショナルチームの組成支援)
2. 大学におけるモメンタムの醸成
3. カスタマーディスカバリーの導入
4. グローバルのパスを活用した成功事例の創出
5. 政府支援の効果最大化
6. より世界に開かれたエコシステムの形成
7. Science to Startupを加速する人材育成

2027年までに起こすべき 7つの変化の実現状況

各ページの左上の番号は各指標が反映する
「2027年までに起こすべき7つの変化」の番号に対応

1. 世界最高水準のスタートアップフレンドリーな制度
2. 世界で勝負するスタートアップが続出
3. 日本を世界有数のスタートアップ集積地に
4. 大学を核としたスタートアップエコシステム
5. 人材の流動化、優秀人材をスタートアップエコシステムへ
6. 起業を楽しみ、身近に感じられる社会へ
7. スタートアップ振興を国の最重要課題に

令和7年度税制改正

- **ストックオプション税制の拡充**

産業競争力強化法において

「募集新株予約権の機動的な発行」（ストックオプション・プール）に関する制度を新設

- **エンジェル税制の拡充**

再投資期間を **2年** に延長（繰戻し還付制度の創設）

令和6年度以前に実現した税制の利用実績

- **エンジェル税制**

2023年度にエンジェル税制の適用を受けた投資額 **120** 億円

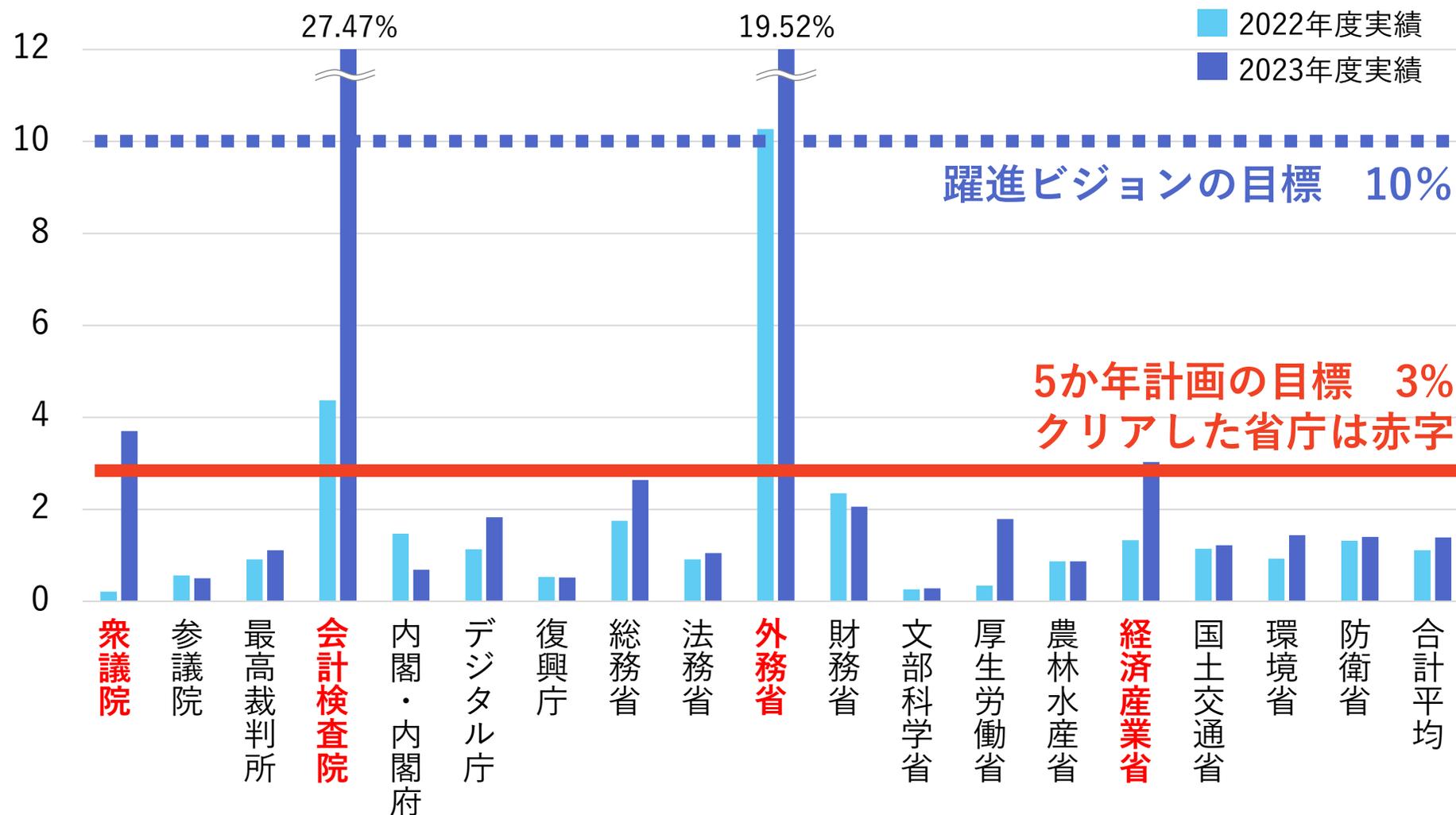
2023年度にエンジェル税制の適用を受けた個人投資家が再投資したスタートアップ **224** 社

- **オープンイノベーション促進税制**（2023年出資に対する利用状況）

証明書発行件数 **94** 件（国内投資 **89** 件・海外投資 **5** 件）

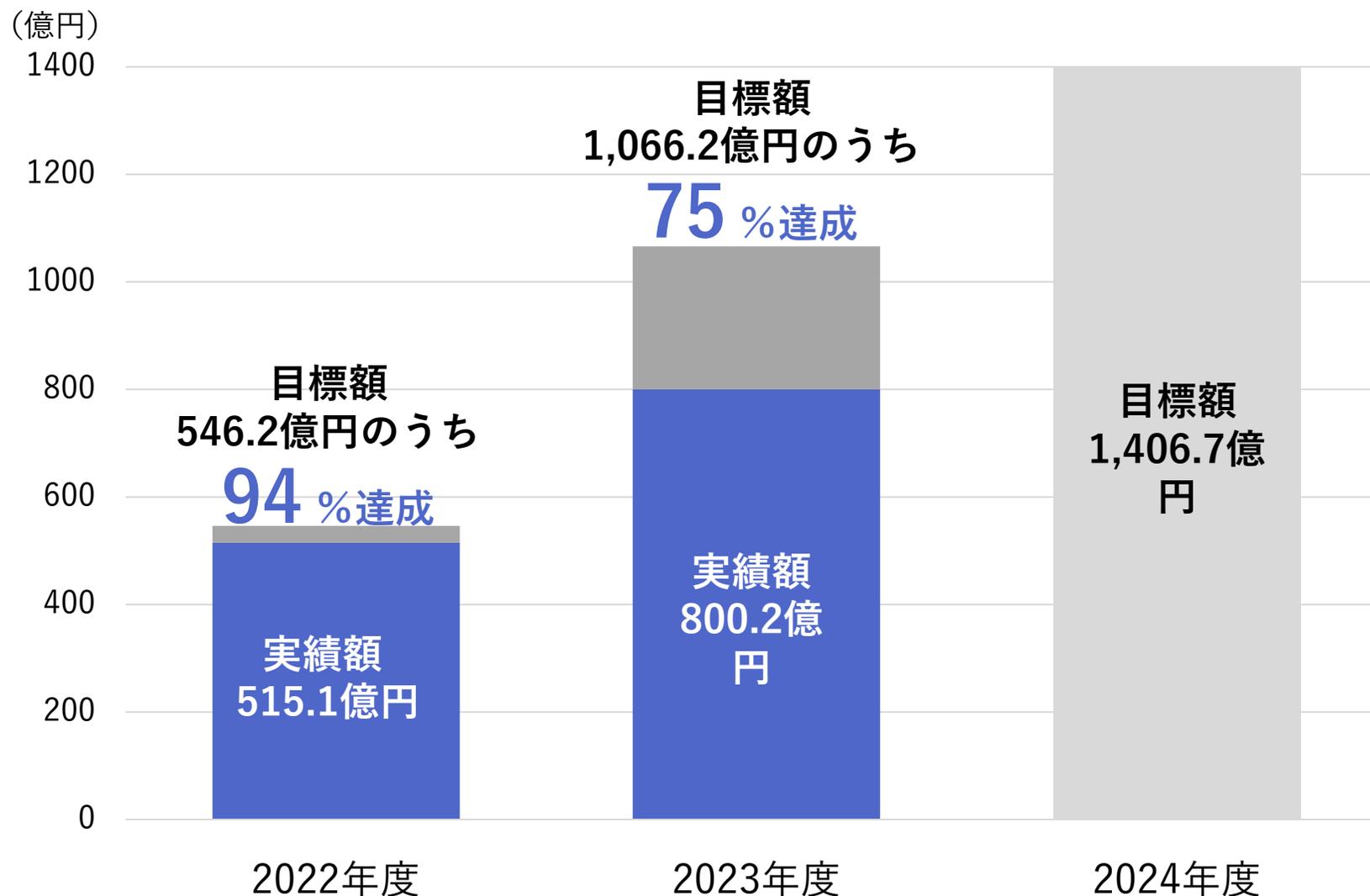
税制利用株式取得額 **511** 億円（国内投資 **288** 億円・海外投資 **223** 億円）

官公需総実績に占める新規中小企業者契約実績の割合（金額ベース）



SBIR制度におけるスタートアップへの支出実績

世界最高水準の
スタートアップフレンドリーな制度



専門の弁護士が規制に関する相談に対応する

経済産業省「スタートアップ新市場創出タスクフォース」の実績 **累計 80 件** (2024年度末時点)

規制改革推進会議によって実現した例

<p>医療等データの 利活用法制等の整備 (創薬の加速化等)</p>	<p>2025年に結論、結論を得次第、速やかに措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 約270億件のレセプトデータを格納するNDB*など、12の公的DBの有する膨大な医療等データについて、医学研究や創薬上期待が大きい仮名化情報の利用を可能に * NDB：匿名医療保険等関連情報データベース DB間の連結解析を可能に 研究者等の高度な解析を円滑・迅速に可能とする解析環境等を整備
<p>クラウドサービスの 政府調達における スタートアップ等の 参入促進</p>	<p>2025年度に措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 政府が調達するクラウドサービスにおけるセキュリティ水準の確保を図るため、ISMAP*制度の登録・更新申請に係る監査項目の削減などを行いスタートアップ企業等の参入を促進 * ISMAP：政府情報システムのためのセキュリティ評価制度
<p>無人航空機 (ドローン) の 更なる活用・普及に 向けた環境整備</p>	<p>2025年度以降継続的に措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローンのレベル3.5*飛行について、一人の操縦者による多数機同時運航を可能とするため、AIによる人・障害物等の自動検知の推進を含むガイドライン等を策定 * 山間部や離島など無人地帯において機上カメラの活用等により立入管理措置なしでの目視外飛行。航空法の通達改正により、2023年12月から認められた。

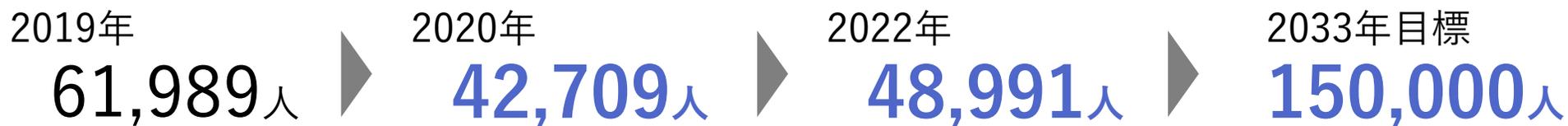
外国人留学生数（外国→日本）

高等教育機関及び日本語教育機関への留学者数



日本人留学生（日本→外国）

学位取得等を目的とする長期留学者数



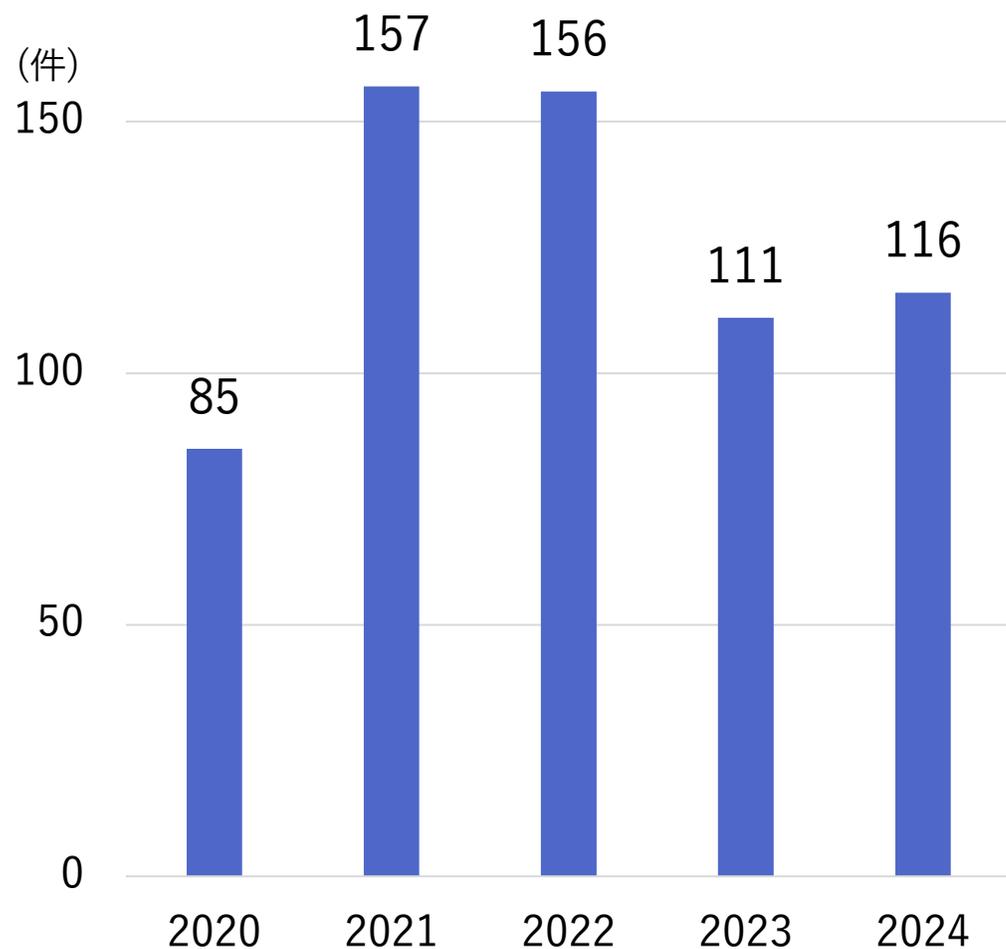
（※新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響が続き留学者数が低迷したことに留意）

（出所）

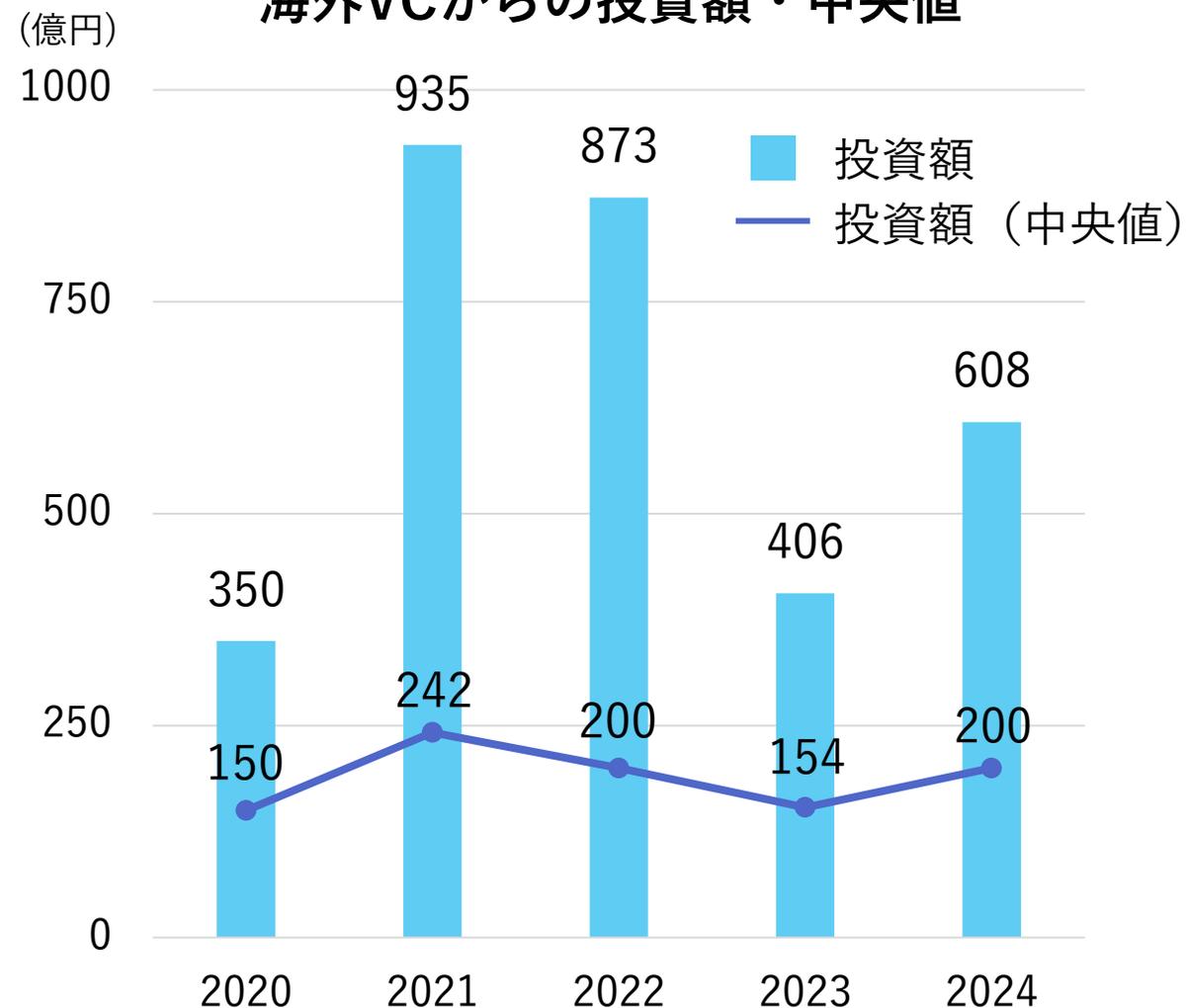
外国人留学生数
日本人留学生数
2033年目標値

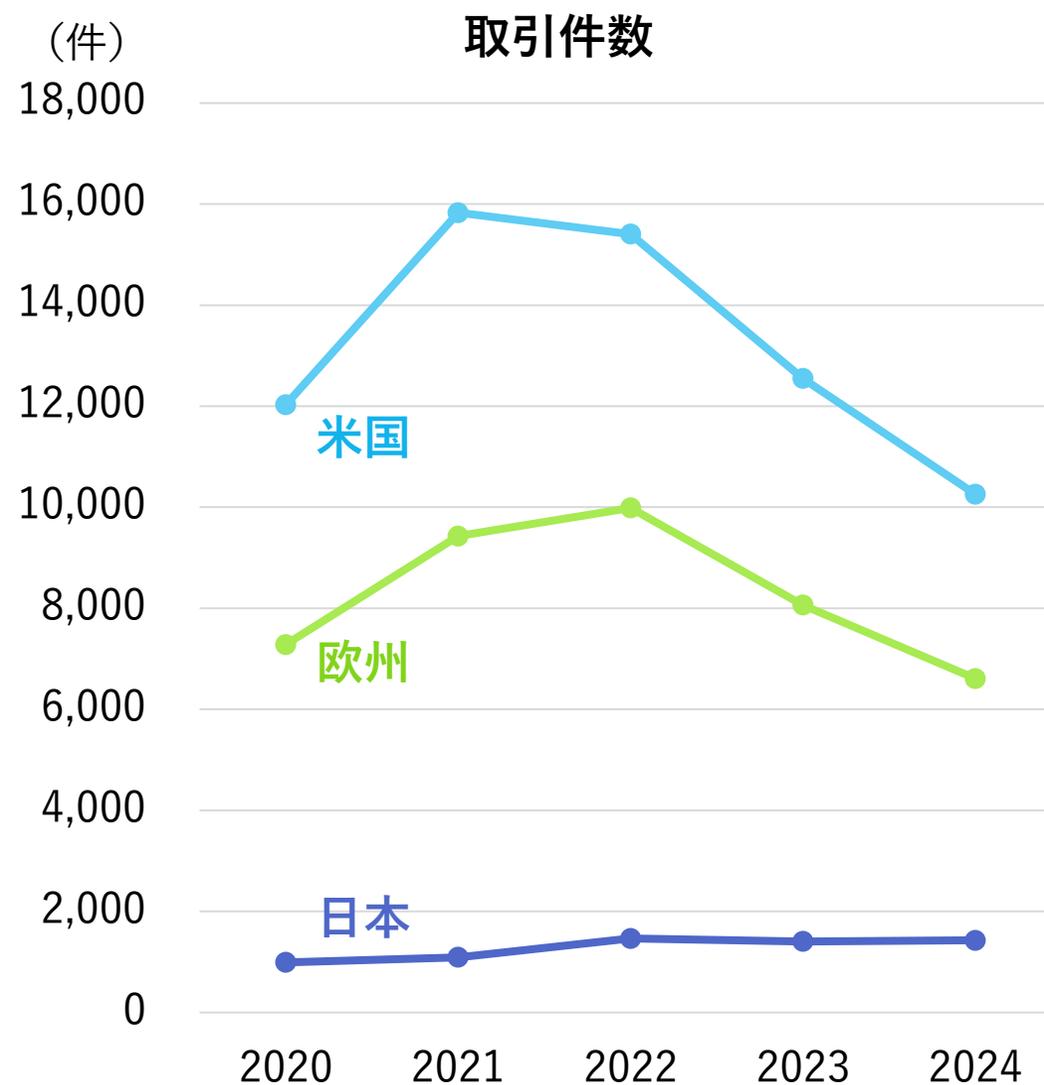
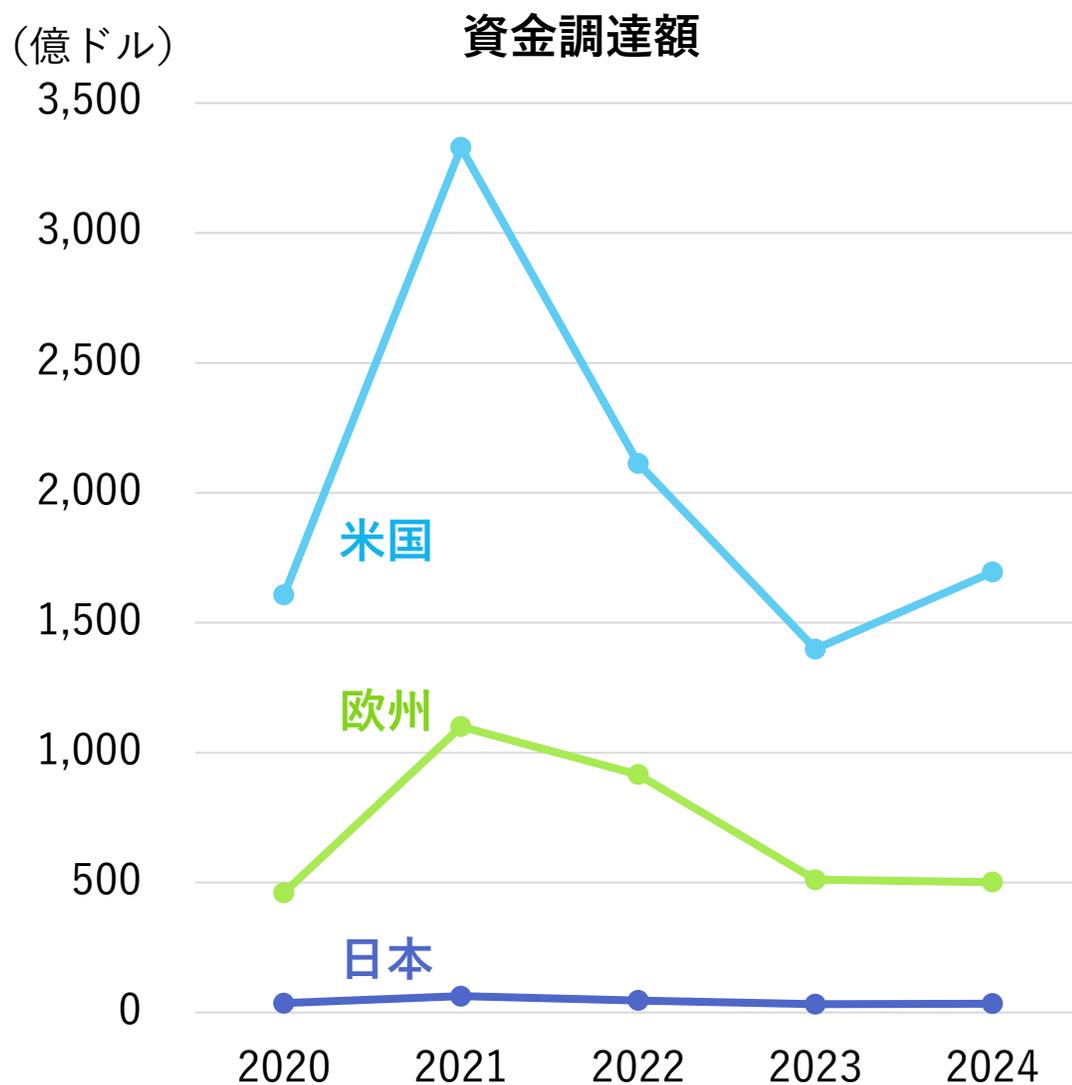
日本学生支援機構「2024（令和6）年度外国人留学生在籍状況調査結果」
文部科学省「『日本人の海外留学者数』及び『外国人留学生在籍状況調査』等について」（2025/4/30発表）
教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（第二次提言）」

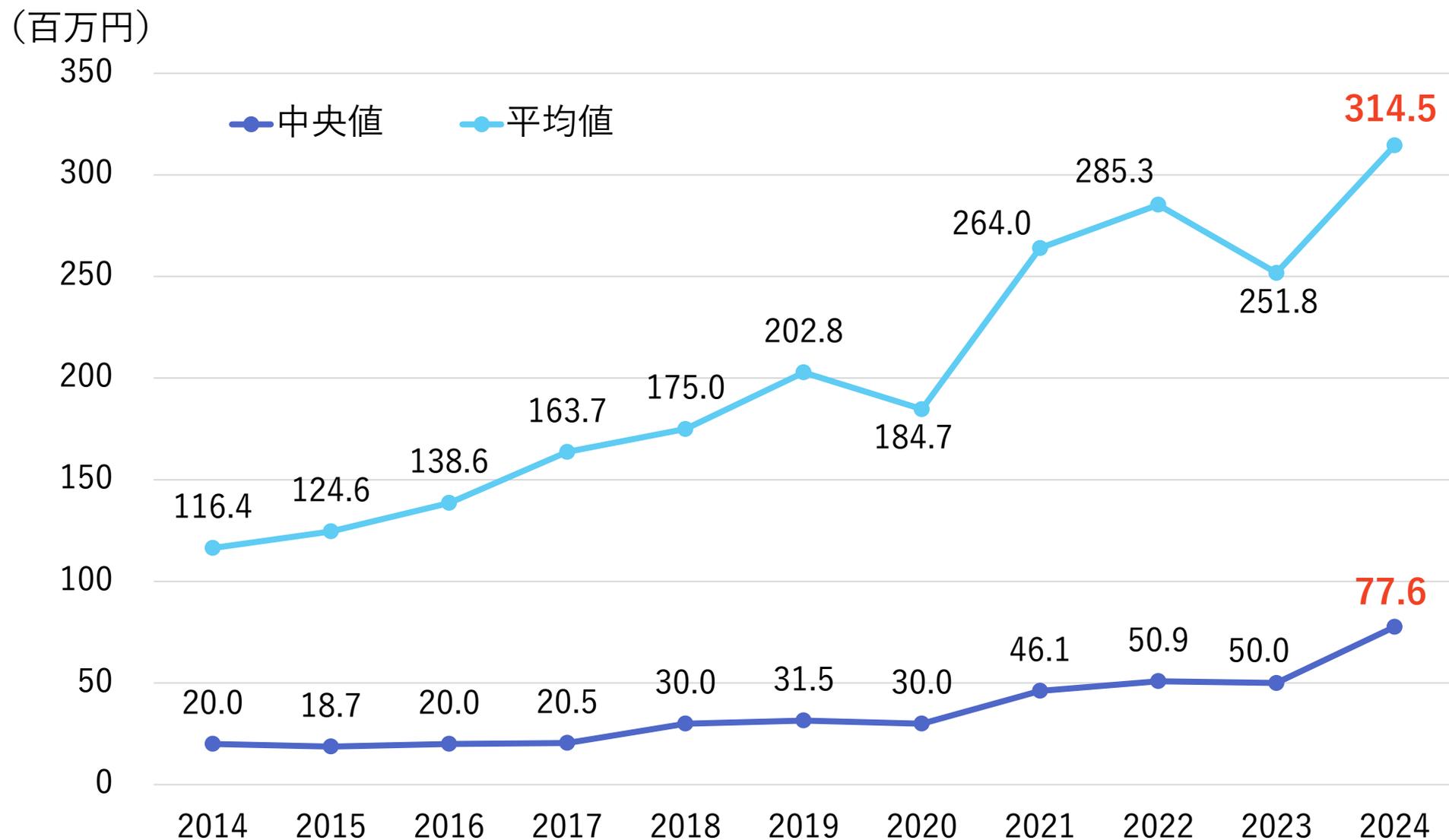
海外投資家の日本における投資件数



海外VCからの投資額・中央値







エクイティ付きプログラム

• Techstars Tokyo

第1回は世界79カ国・地域から **12** 社のスタートアップを選出、1社あたり **120,000** ドルを出資
約3か月間のアクセラレーションプログラムを実施、デモデイには国内外の投資家約 **450** 名が参加

• Alchemist Japan

B2B分野のシード期スタートアップ **9** 社を選出、1社あたり約 **100,000** ドルを出資
日本、アジア、中東、ヨーロッパ、北・南米出身の創業者が参加
日本で約3か月間のプログラムに参加後、米国サンフランシスコで約6か月間のグローバル・プログラムへ参加

ノンエクイティプログラム「Global Startup Acceleration Program (GSAP)」

• 内閣府、経済産業省の協力を得て、国内スタートアップ企業の海外展開支援を実施
AlchemistX、Berkeley SkyDeck、スタンフォード大学発StartX等と連携

• 実績 A社（製造業） 米国大手自動車会社と**POCを実施・契約受注**

B社（ディープテック） 大手アクセラレーターから **20** 万ドル資金調達

※事業成長の加速および海外展開をめざす
スタートアップのための支援プログラム。
起業経験者や専門家からのアドバイス、
ビジネスモデルの検証・改善、
ピッチトレーニング等を受けることができる。

- JST・大学発新産業創出基金事業 **5**年で**1,000**億円
KPI : 令和9年度までに大学からのスタートアップ事業化の支援件数**5,000**件（累計）
進捗 : 2023年度実績**1,079**件
- NEDO・ディープテックスタートアップ支援基金 **5**年で**1,000**億円
KPI : 支援終了後1年以内に、次シリーズでの資金調達を実施した者の割合等を**5**割にする
進捗 : 2025年4月時点の採択実績累計**84**件
- NEDO・バイオものづくり基金 **10**年で**3,000**億円
2024年度実績 : **1,303**億**1,968**万円・**8**件交付決定

- **NEDO・GX分野のスタートアップ支援 5年で2,000億円**
KPI : 支援終了後1年以内に、次シリーズでの資金調達を実施した者の割合を **5割**を目指す
進捗 : 2025年4月時点の採択実績累計 **10件**を採択・支援継続中。
- **AMED・創薬ベンチャーエコシステム強化事業 3,500億円**
KPI : 創薬ベンチャーの採択件数 **70件**
進捗 : 2024年度末時点の採択実績（累計） **認定VC 30社 創薬ベンチャー 30社**
- **中小機構によるベンチャーファンド等へのLP出資（2024年3月末時点）**
250件超のベンチャー型ファンドに対して **3,400億円超**の出資約束を実施
出資先ファンドの投資先企業では **250社超**が国内新興市場等へのIPOを実現
IPOした機構出資ファンド投資先企業のなかで、**時価総額 1,000億円を超える会社は 10社以上**
- **JIC（産業革新投資機構） 2024年末時点のVC出資約束実績（累計） 41件 1,749億円**

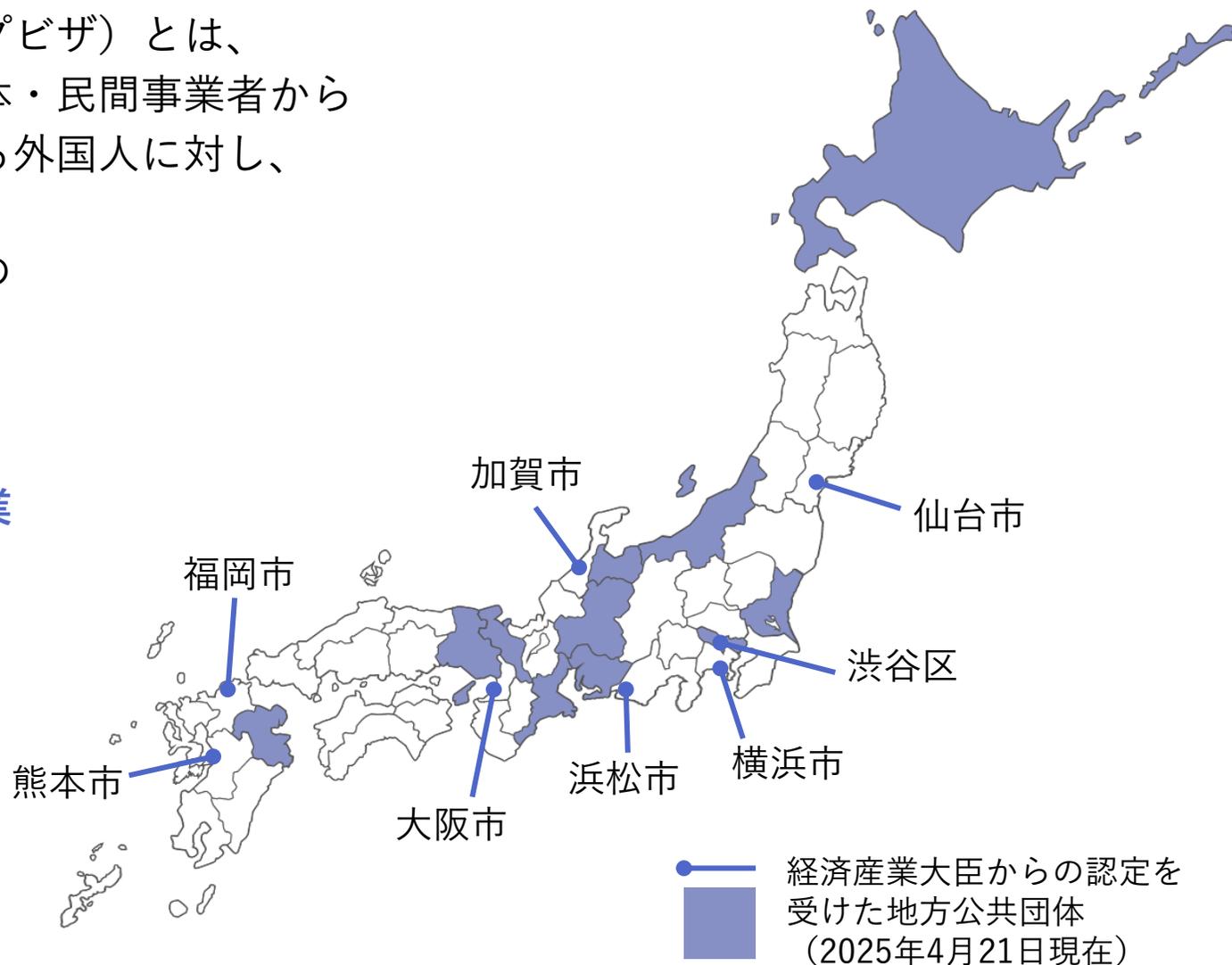
3 スタートアップビザ

外国人起業活動促進事業（スタートアップビザ）とは、経済産業大臣の認定を受けた地方公共団体・民間事業者から起業準備活動に関する管理・支援を受ける外国人に対し、在留資格「経営・管理」の取得に必要な「事業所の確保」および「事業の規模」の2つの要件の充足を猶予する制度。

2025年1月の制度改正により
国家戦略特別区域外国人創業活動促進事業
（内閣府事業）と一本化し、
猶予期間を最大1年から**2**年に延長。

2024年度の利用件数 **94**件

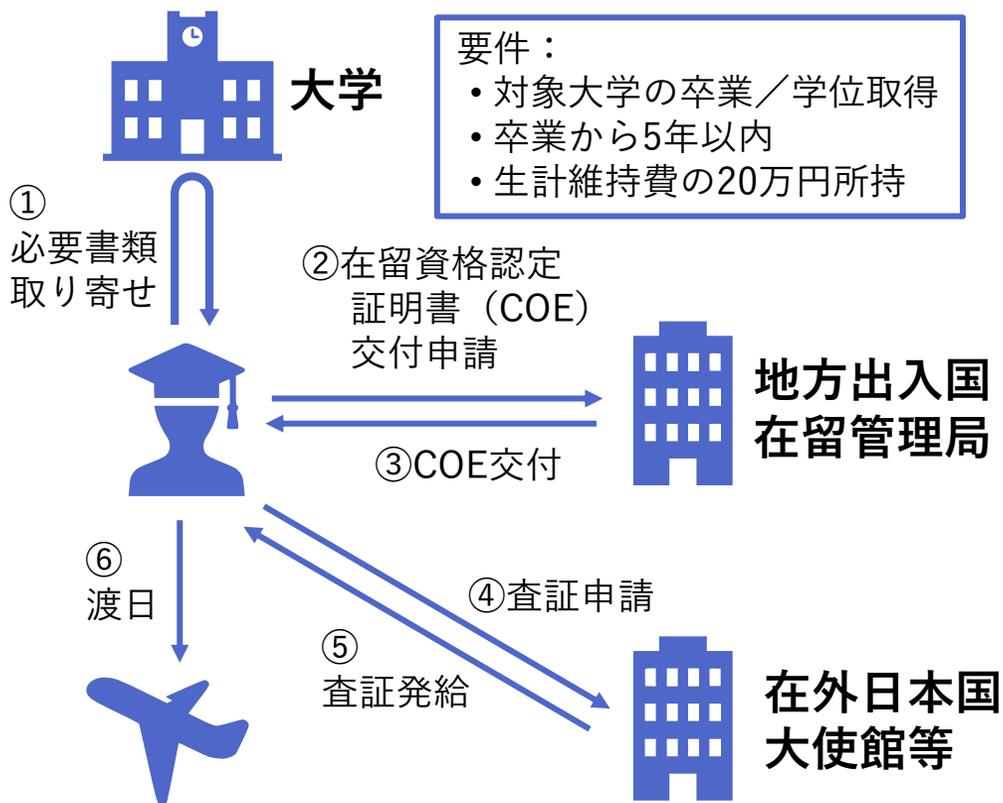
※2024年12月末時点の実績。
認定地方公共団体のうち、東京都および熊本市については
2025年1月以降に認定



3 J-Findの利用実績

J-Find (未来創造人材制度)

世界大学ランキングで100位以内の大学を卒業した外国人が就職活動や起業準備にかかわる活動を行える制度



2023年12月時点

本人 **353** 人

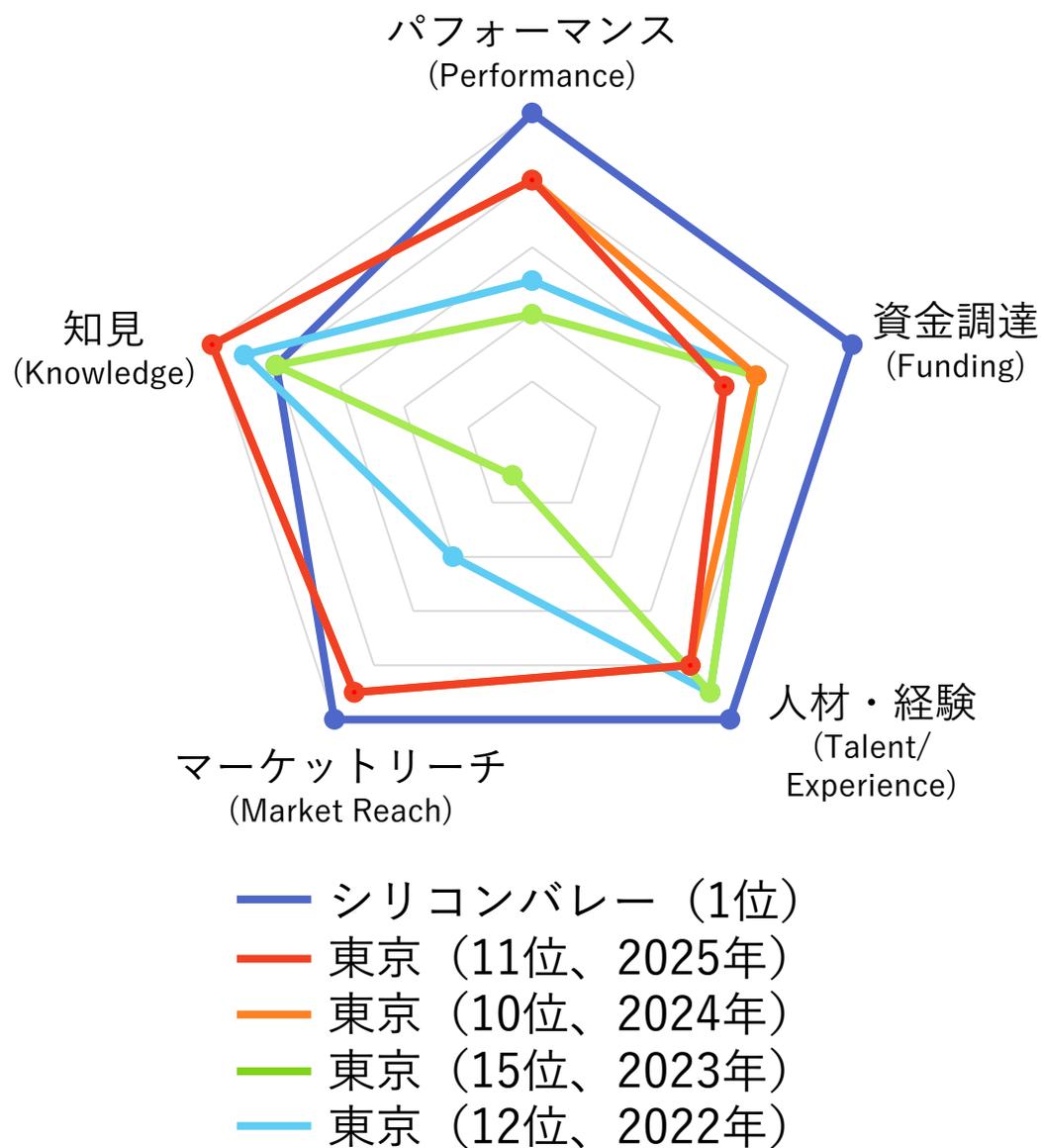
配偶者・子 **19** 人

2024年12月時点

本人 **845** 人

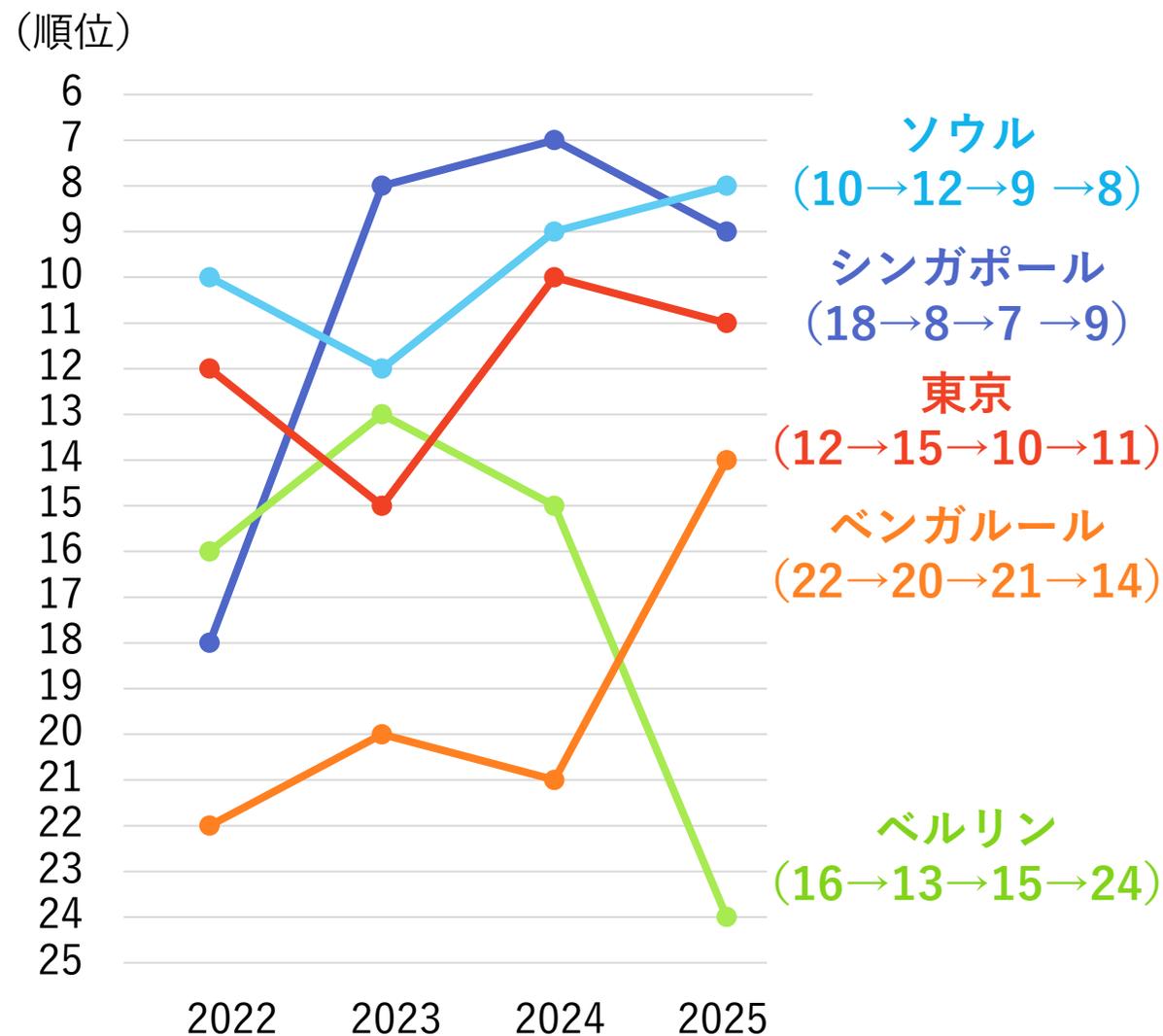
配偶者・子 **52** 人

(内訳)		2023年 12月時点	2024年 12月時点
アジア	本人	297人	680人
	配偶者・子	29人	39人
ヨーロッパ	本人	24人	70人
	配偶者・子	4人	3人
北アメリカ	本人	22人	65人
	配偶者・子	6人	4人
アフリカ	本人	0人	9人
オセアニア	本人	10人	19人

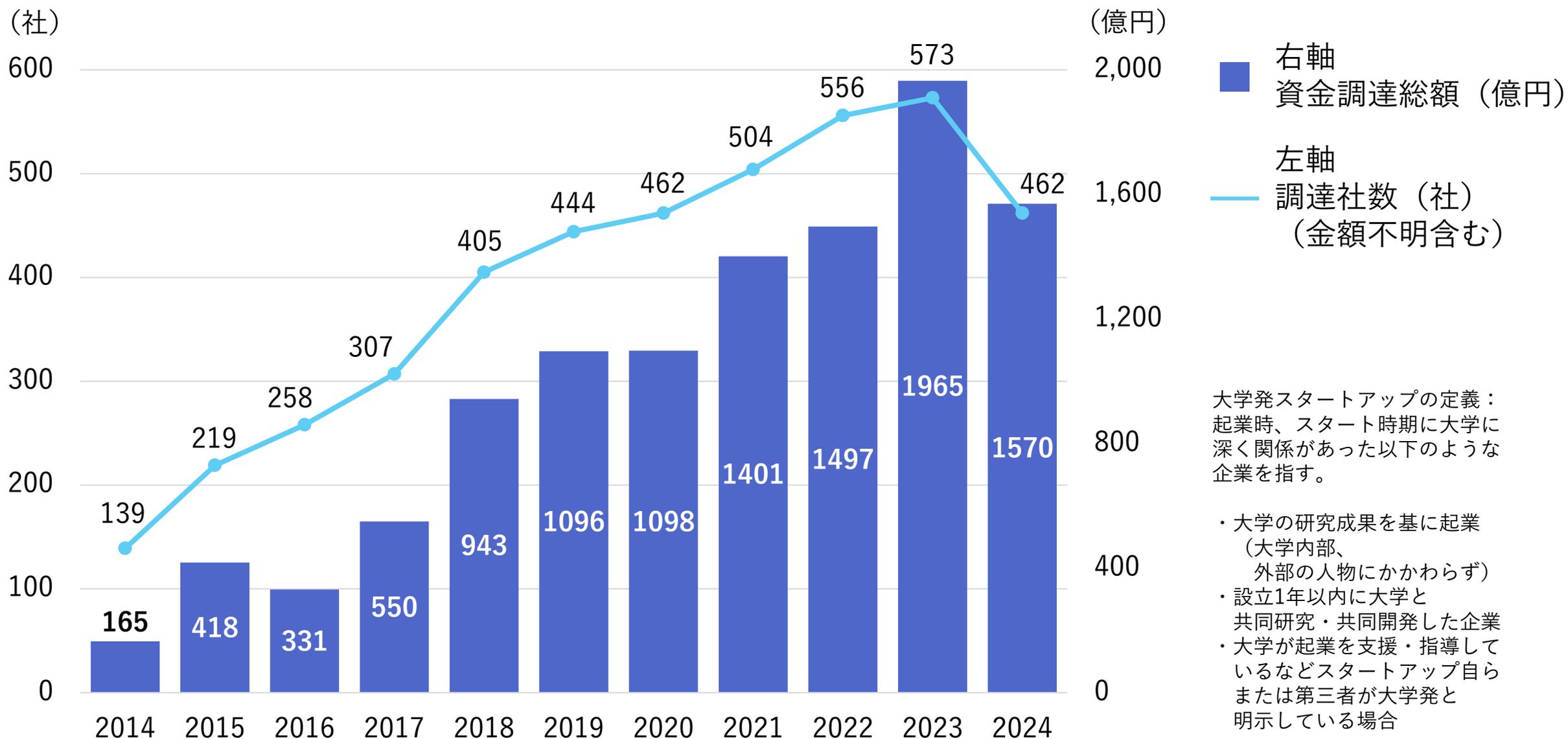


東京と競っている都市

(毎年の順位変動が2以下の都市は除く)

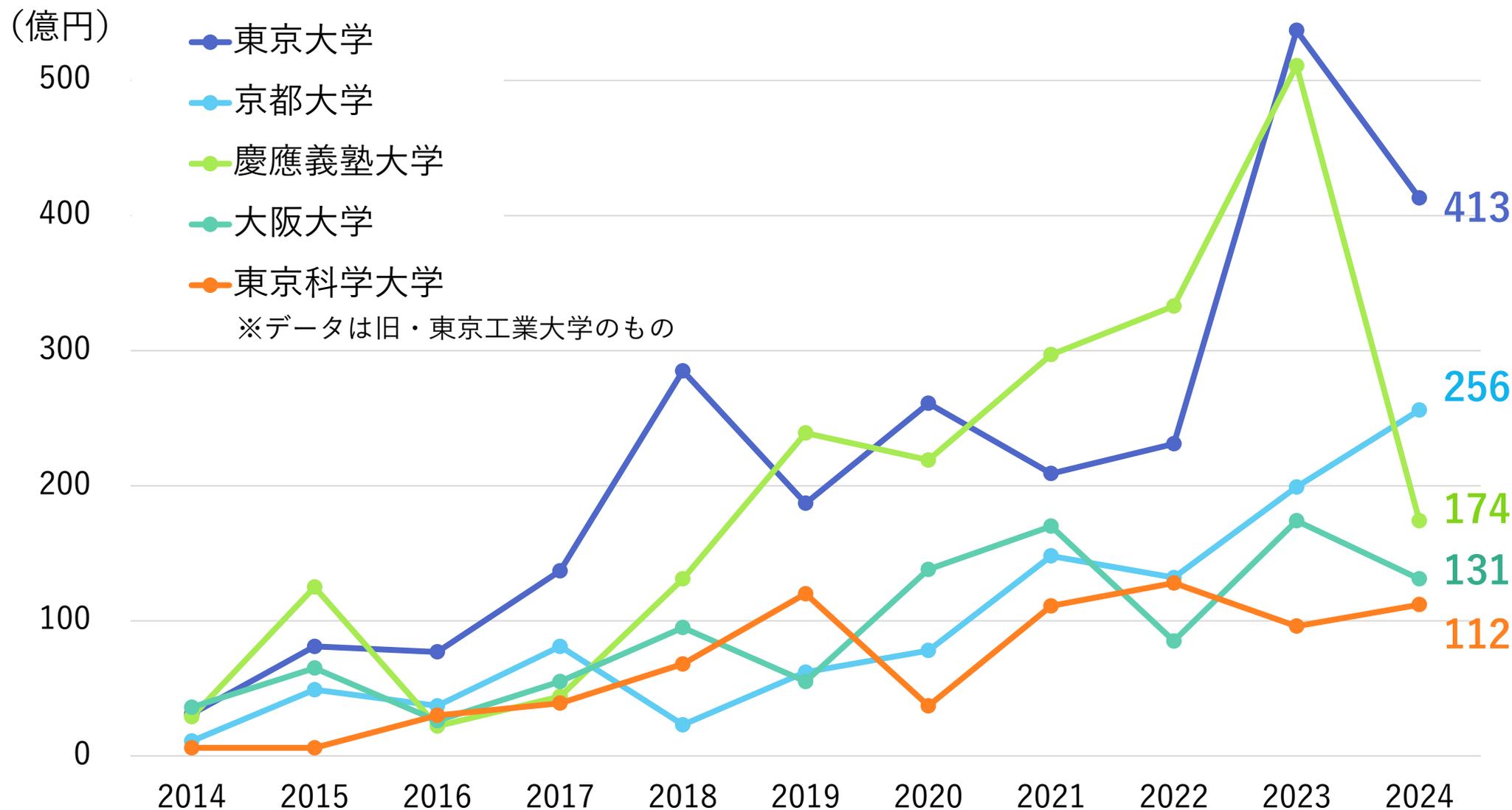


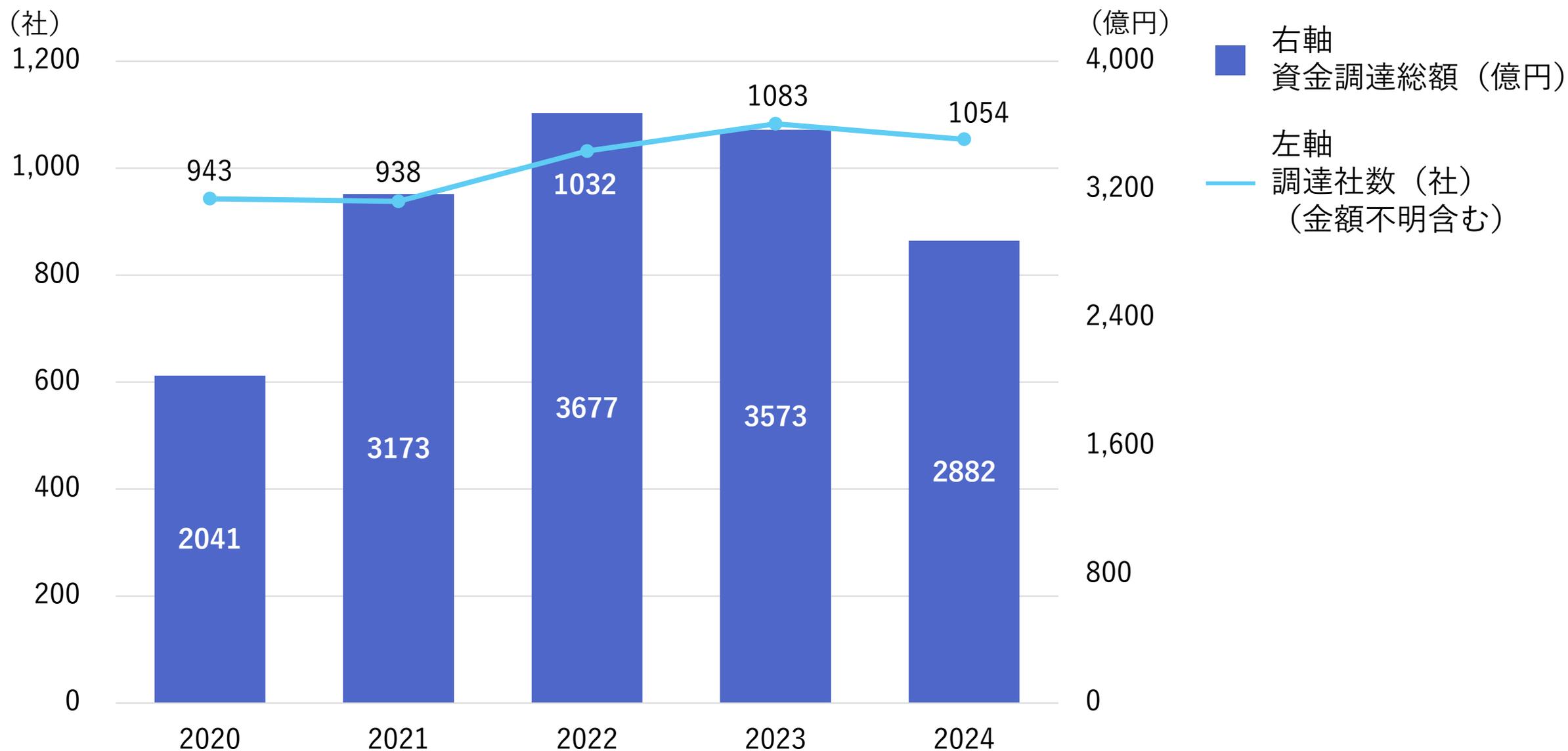
大学発スタートアップ資金調達額・調達社数

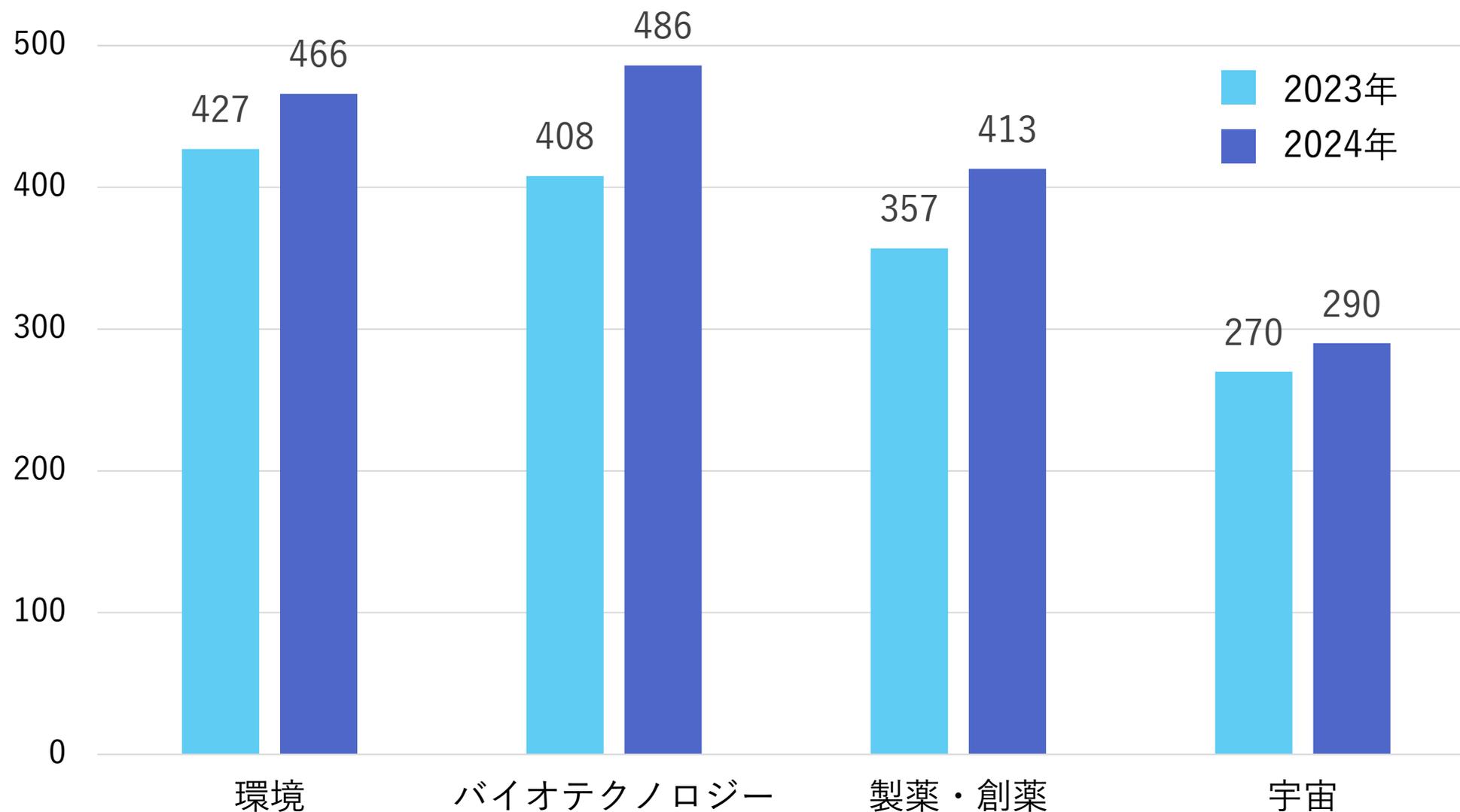


主要大学別の大学発スタートアップ調達額

大学を核とした
スタートアップエコシステム





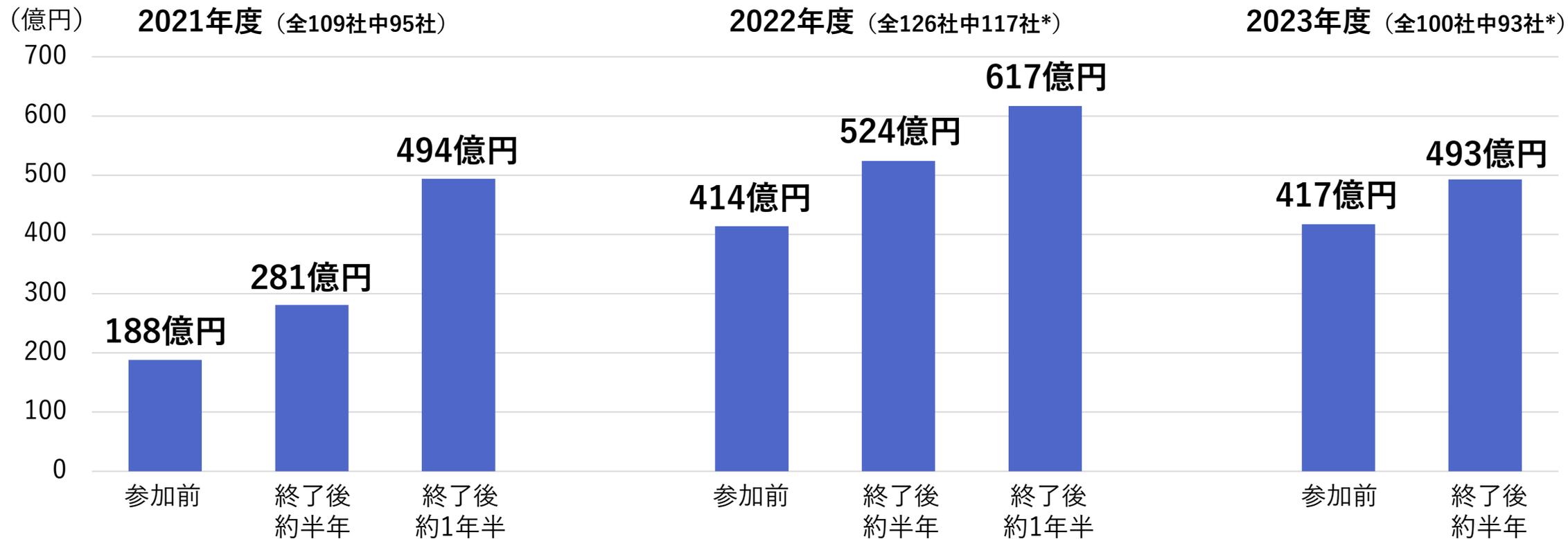


4 エコシステム拠点

内閣府・スタートアップ・エコシステム拠点都市
2023年度末におけるユニコーン創出KPIの達成率

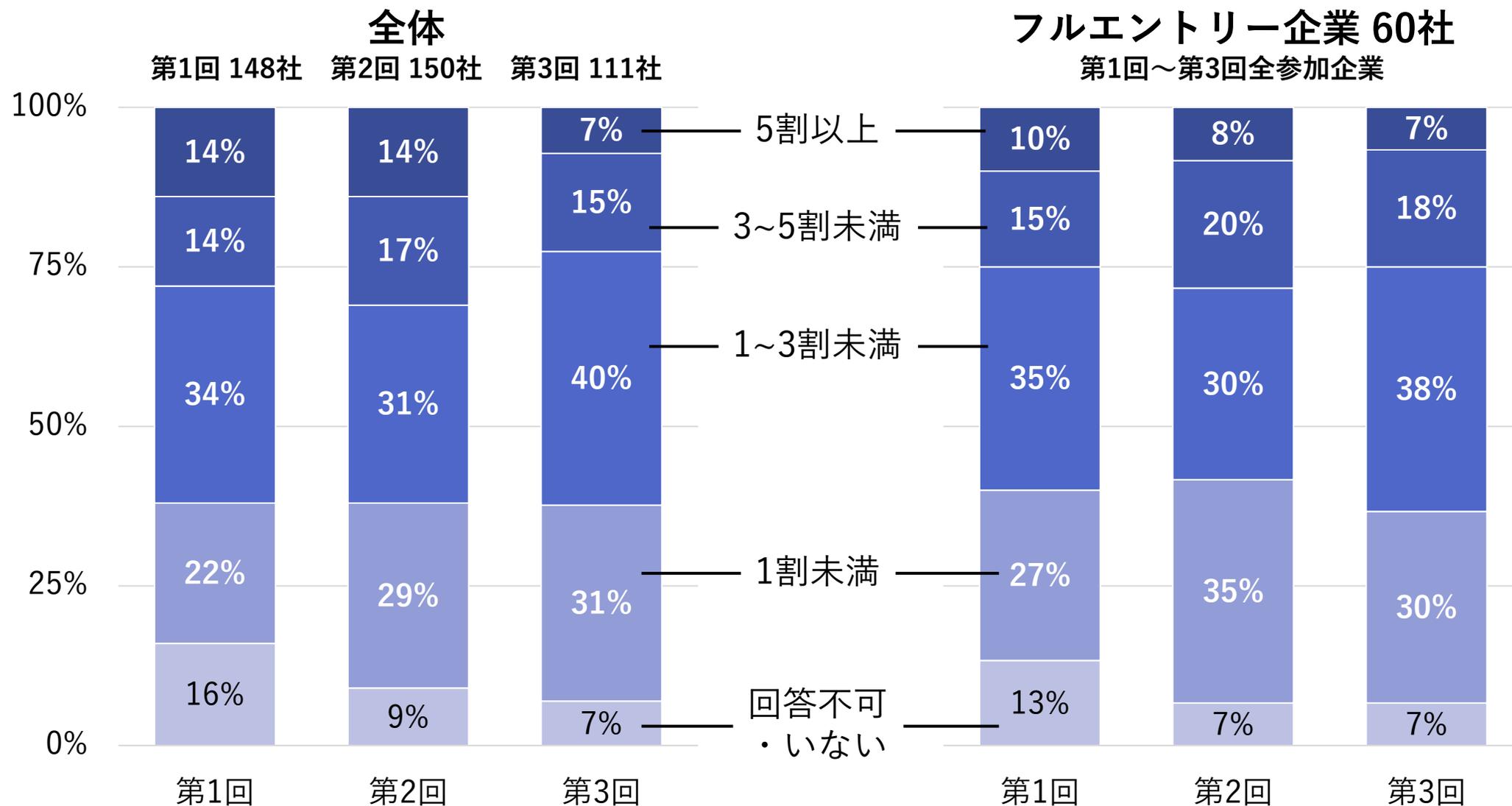
東京 **65%** 名古屋・浜松 **0%** 大阪・京都・神戸 **20%** 福岡 **20%**

内閣府アクセラレーション・プログラム参加企業の合計調達額推移



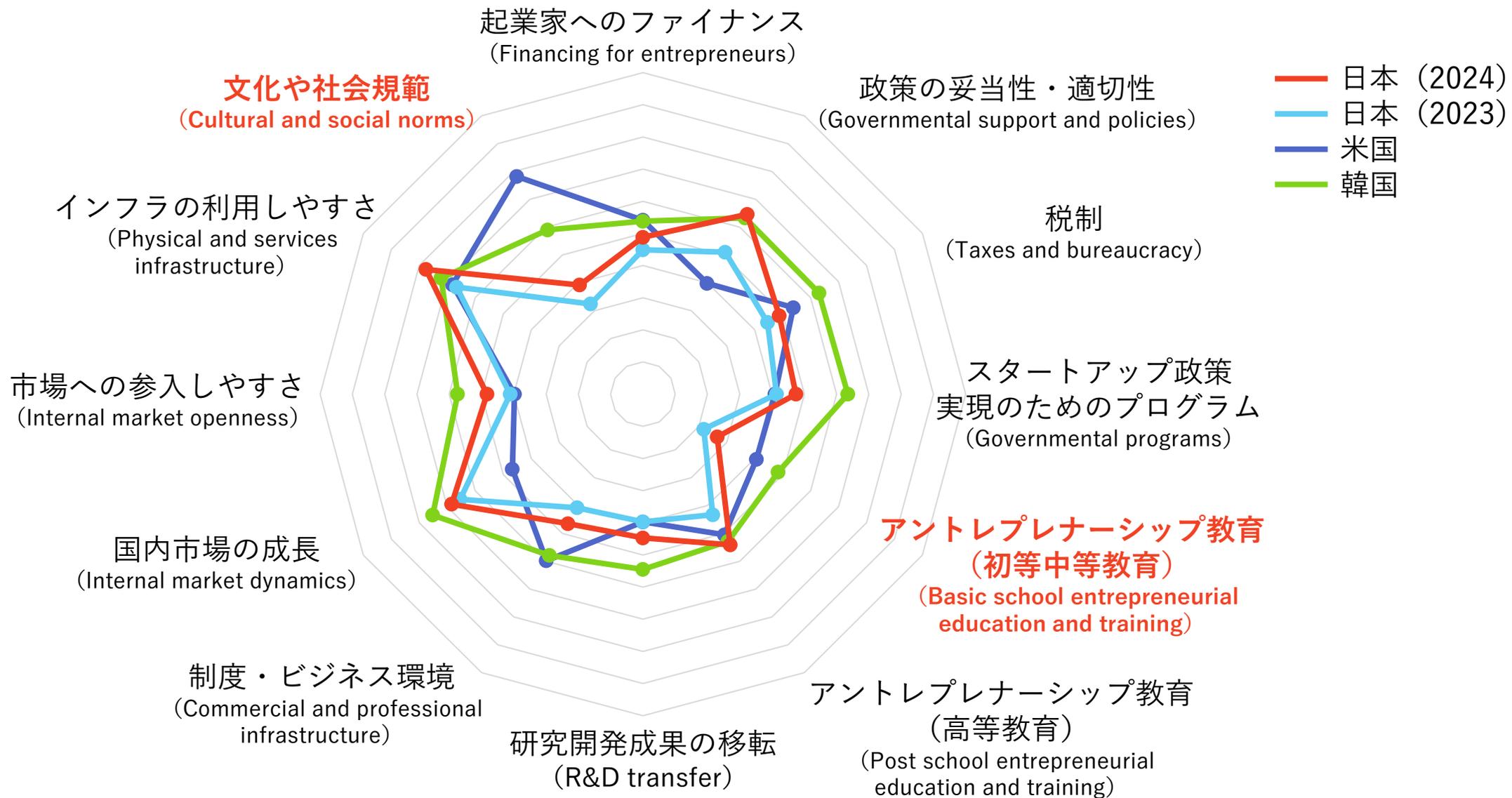
大企業本社役員構成の中途採用の割合

人材の流動化
優秀人材をスタートアップエコシステムへ



※第3回より社外取締役は回答から除外することを明記

6 起業に向けた条件



- 文部科学省では、小中高生等へのアントレプレナーシップ教育を推進する機運を全国的に高めるため、2023年1月に「起業家教育推進大使」を文部科学大臣から任命。2024年4月から「**アントレプレナーシップ推進大使**」へと名称を変更。
- 経団連としては、3名が登録。**
南場智子 スタートアップ委員長（DeNA会長）
出雲 充 スタートアップ委員長（ユーグレナ社長）
松本 勝 スタートアップ政策タスクフォース座長代理（VISITS Technologies CEO）
- アントレプレナーシップ推進大使は、それぞれの経験やネットワーク等を活かし、**全国的なイベントや学校現場などで講演、広報活動を展開。**

大使総数

2023年度末時点 **10** 人 ▶ 2024年度末時点 **79** 人 うち **7** 名は経団連からの登録・紹介

小学校・中学校・高等学校等への**大使派遣回数 164** 回（経団連からは **8** 回派遣）

10X10X実現に向けたアクションの3本柱

提言活動

- スタートアップ委員会・政策タスクフォースの開催
- 政府施策に関するレビューブックの発行
- 提言「**Science to Startup**」
- 経団連 Startup Summitの開催
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 経済産業省研究開発・イノベーション小委員会をはじめとする政府関係会合への意見発出
- 各地スタートアップとの意見交換

大企業の行動変容

- **スタートアップフレンドリースコアリング**の継続実施
- CVCネットワークキング
- 各種勉強会の開催（カーブアウト、ベンチャークライアントモデル（VCM）等）

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催（2019年～、延べスタートアップ355社登壇）
- 「**経団連 Startup Slack**」の運営

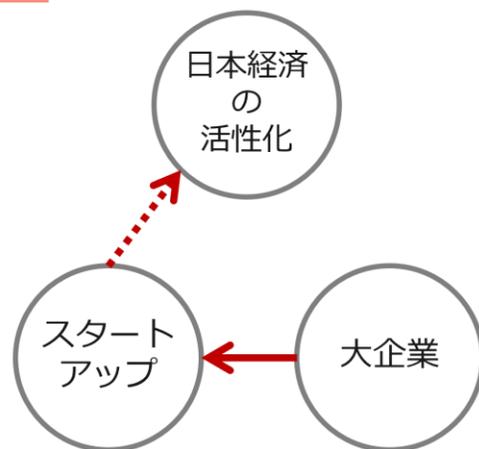
提言、レビューブック、スコアリングの結果等は経団連HPに全文を掲載しています

スタートアップフレンドリースコアリング

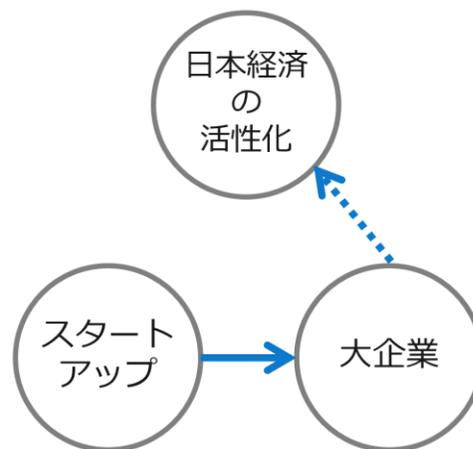
- 経団連が経済界全体の行動変容を促すべく策定した「スタートアップフレンドリースコアリング」は、アンケートへの回答（1,000点満点）によって**企業の活動を点数化**する取り組み。2022年度に開始。
- スコアリングを構成する3つの視点は、スタートアップエコシステムに重要であると同時に、**大企業がよりイノベティブになるために不可欠な観点**。
- 第1回150社、第2回148社、第3回111社が参加し**参加企業数は合計220社**となった。
- このうち**3回すべて参加した企業（フルエントリー企業）60社の平均スコアは、1,000点満点中373.9点→388.1点→403.2点と逡増**。大企業の行動変容が着々と進展。

経団連「スタートアップフレンドリースコアリング」の3つの視点

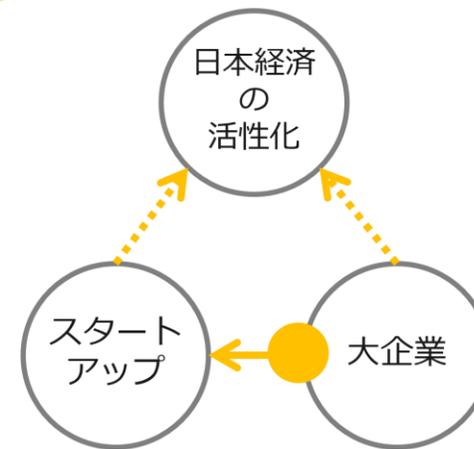
1 リソース提供



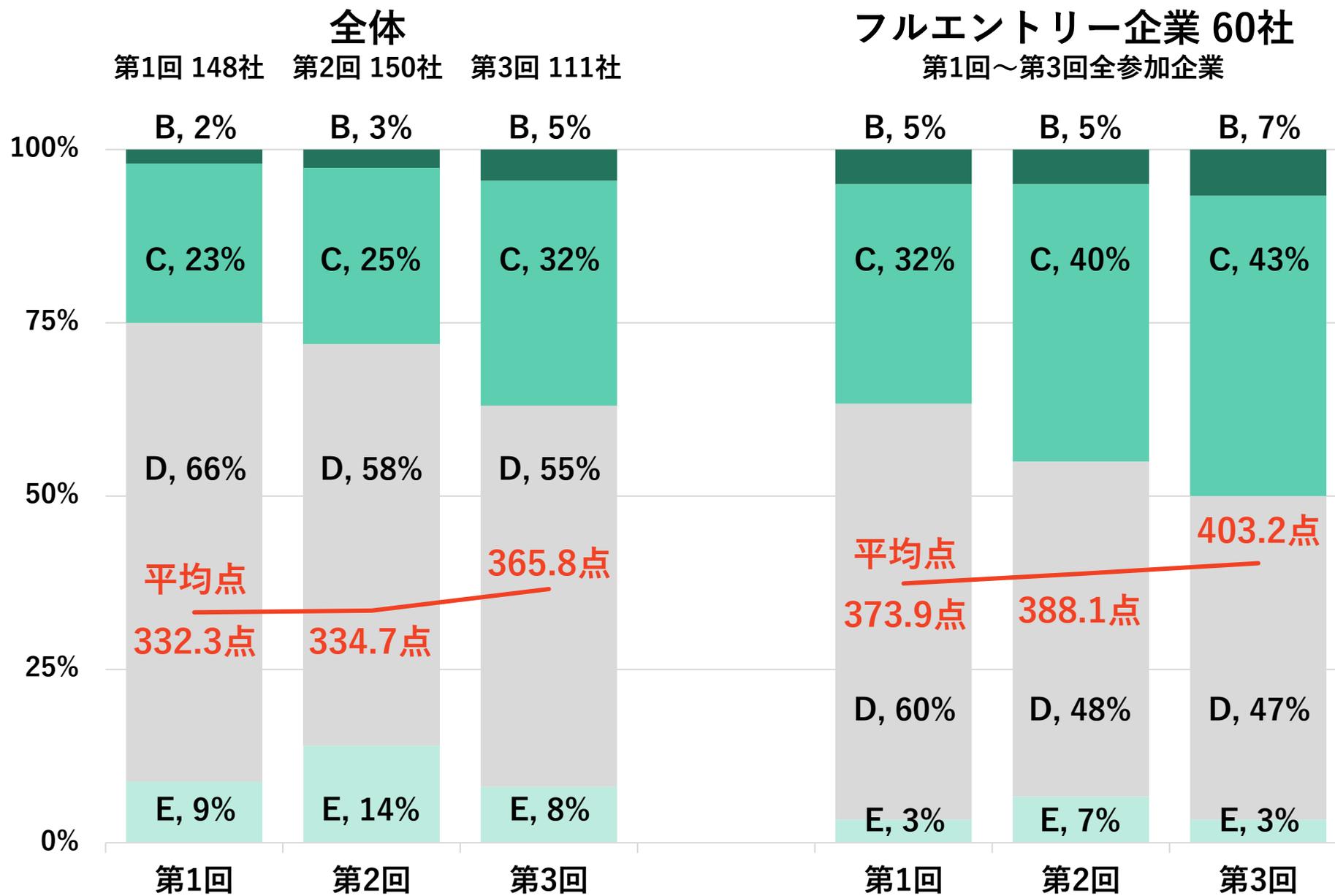
2 事業・人材の取り込み



3 事業・人材の輩出



第3回スコアリングの結果概要



1	KDDI	<p>Tomorrow, Together</p> 	6	 日立製作所	HITACHI
2	電通グループ	dentsu	7	三菱UFJ フィナンシャル ・グループ	 MUFG
3	BIPROGY	 BIPROGY	8	 日本電信電話	 NTT
4	三菱地所	 三菱地所	9	 日本電気	NEC \ Orchestrating a brighter world
5	ディー・エヌ・エー	:DeNA	10	TOPPAN ホールディングス	TOPPAN

これまでのスコアトップ10社

第1回（2022年度）

第2回（2023年度）

第3回（2024年度）

1	KDDI	KDDI	KDDI
2	ディー・エヌ・エー	電通グループ	電通グループ
3	東京海上ホールディングス	ディー・エヌ・エー	BIPROGY
4	凸版印刷	BIPROGY	三菱地所
5	BEENOS	三菱地所	ディー・エヌ・エー
6	リコー	TOPPANホールディングス	日立製作所
7	第一生命ホールディングス	三菱UFJ フィナンシャル・グループ	三菱UFJ フィナンシャル・グループ
8	三井不動産	日本生命保険	日本電信電話
9	コマツ	東京海上ホールディングス	日本電気
10	野村ホールディングス	ANAホールディングス	TOPPANホールディングス

フルエントリー企業 第1回・第2回・第3回全てご回答いただいた企業

※HITACHIロゴは
日立製作所、日立ハイテクの順で掲載



これまでにご回答いただいた企業

アイセロ アサヒグループホールディングス アステラス製薬 アズビル アスリテラ 伊予銀行 岩田商会
 ヴェオリア・ジャパン エイジェック エイチ・ツー・オー リテイリング ANAホールディングス SMBC日興証券
 SCSK NECソリューションイノベータ NOK ENEOSホールディングス 大林組 小野薬品工業 カシオ計算機
 カシワバラ・コーポレーション カヤバ 川崎重工業 関西電力 キヤノン キヤノンマーケティングジャパン 紀陽銀行
 共同印刷 グッドコムアセット グリーンモンスター グンゼ 建設技術研究所 弘電社 興和 国際自動車 コナミグループ
 コニカミノルタ 相模屋食料 山陰酸素工業 三十三銀行 三東工業社 サンフロンティア不動産 三洋化成工業
 JFEエンジニアリング JFEスチール ジェーシービー 塩野義製薬 四国銀行 静岡ガス 上海電力日本 新日本科学スズキ
 住友金属鉱山 住友商事 セイア 正興電機製作所 セイコーエプソン セイコーグループ 西武ホールディングス
 セブン-イレブン・ジャパン セブン銀行 双日 ソニーグループ ダイキン工業 大東建託 大日本印刷 大和ハウス工業
 TAKARA & COMPANY 竹中工務店 中央日本土地建物 中電工 千代田化工建設 TSUCHIYA 椿本チェーン TIS 帝人
 デンソー 電通グループ 東亜合成 東海東京フィナンシャル・ホールディングス 東京建物 東京電力ホールディングス
 東芝三菱電機産業システム 東洋製罐グループホールディングス 東洋紡 豊田合成 トランザクション トランスコスモス
 南海電気鉄道 ニコン 日油 日揮ホールディングス 日新運輸工業 日鉄興和不動産 NIPPO
 NIPPON EXPRESSホールディングス 日本カーバイド工業 日本精工 日本電信電話 日本特殊陶業 日本発条 日本化薬
 日本航空 日本ゼネラルフード 農林中央金庫 博報堂 白鳳堂 BEENOS 日野自動車 ファミリーマート フジクラ
 フジタ 藤田観光 富士電機 フジワラテクノアート 古河電気工業 北海道電力 ボッシュ 三浦工業 ミサワホーム
 三井化学 三井金属鉱業 三井不動産 三越伊勢丹ホールディングス 三菱HCキャピタル 三菱ガス化学 三菱重工業
 三菱マテリアル 三菱UFJ銀行 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 明治ホールディングス メディパルホールディングス
 メルカリ ヤマハ発動機 ユアサ商事 UBE ユニチカ ユニ・チャーム 横浜銀行 ラック リケン リコー
 リンクアンドモチベーション ローソン ワタキューホールディングス ほか

スコアリングを受けるメリット

回答企業には自社の活動を可視化する
詳細な分析レポートを返送

1

自社の**ポジション**や**課題**を分析

2

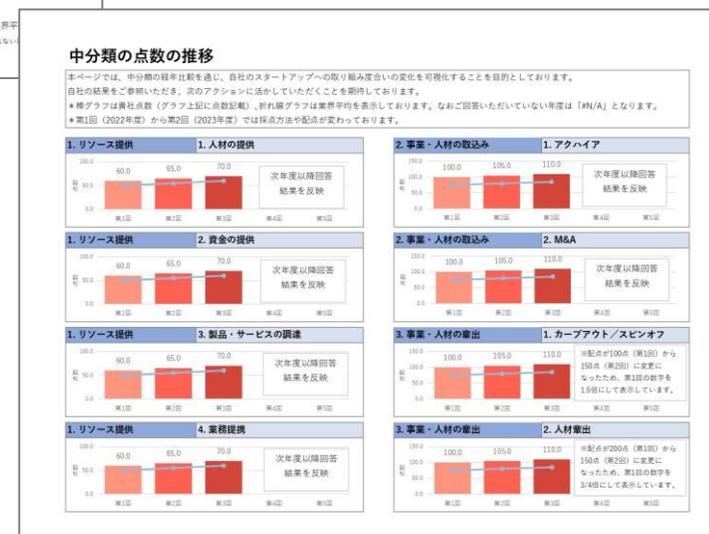
自社の**活動のアップデート**や
方針策定の指針として利用

3

上位企業や事例集から
自社が**ベンチマーク**とすべき**企業**を発見



自社の回答と点数以外にも
設問ごとの採点基準、
平均点、業界平均点を明示
継続回答企業の場合は
中分類の点数の推移も掲載



自社の取り組みが進んでいくなかで
スコアリングで回答する中身もどんどん良くなり、
社内もエンハンスメントされていく。
その延長線上で一番正しい姿が見えてくると思う。
日本を変えるには経団連が変わることが一番良い。

高橋誠スタートアップ委員長 (KDDI会長)
経団連Startup Summit 2024 (2024/5/27開催) にて

10X10X実現に向けたアクションの3本柱

提言活動

- スタートアップ委員会・政策タスクフォースの開催
- 政府施策に関するレビューブックの発行
- 提言「**Science to Startup**」
- 経団連 Startup Summitの開催
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 経済産業省研究開発・イノベーション小委員会をはじめとする政府関係会合への意見発出
- 各地スタートアップとの意見交換

大企業の行動変容

- スタートアップフレンドリースコアリングの継続実施
- CVCネットワークキング
- 各種勉強会の開催（カーブアウト、ベンチャークライアントモデル（VCM）等）

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催（2019年～、延べスタートアップ355社登壇）
- 「**経団連 Startup Slack**」の運営

提言、レビューブック、スコアリングの結果等は経団連HPに全文を掲載しています

KIXの定期開催

大企業とスタートアップの連携を促進するため、大企業側の参加者を**意思決定権者（部長級以上）**とするピッチイベント「**Keidanren Innovation Crossing (KIX)**」を2019年10月から定期開催。2025年10月までに累計**52回**開催・延べ約**355社**が登壇。



<p>対象分野の例</p>	<p>AI／データ分析 ロボット／ドローン／センシング ヘルステック・バイオ SaaS</p>	<p>農業・食品 宇宙 HR Tech クリエイティブ etc</p>
<p>コラボレーション先の例 (五十音順)</p>	<p>ILS（イノベーションリーダーズサミット） 大阪産業局・ナレッジキャピタル 沖縄科学技術大学院大学 キャナルベンチャーズ 九州経済連合会 京都大学 Google 経済産業省（J-Startup） CiP協議会 シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム ゼロワンブースター</p>	<p>東京工業大学（現：東京科学大学） 東京証券取引所／日本取引所グループ 東京大学・東大IPC 東北大学・東北大学ベンチャーパートナーズ Beyond Next Ventures フォースタートアップス 福岡県 Plug and Play 北海道大学 リアルテックホールディングス etc</p>

KIXの模様



進行：齊藤昇 企画部会長
(BIPROGY社長)

第1回 2019/10/1



VISITS Technologies
松本CEO

第9回 2022/5/24



Wamazing
加藤代表取締役CEO

第4回 2020/1/30
with J-Startup



シナモン 平野CEO

第6回
2021/12/10



グリーンエース
石川社長



第20回
2023/9/13

With Midwife
岸畑代表取締役



KIXの成果

- ピクシーダストテクノロジーズ・塩野義製薬は、認知症予防・認知機能改善の可能性を持つ「ガンマ波サウンド」を共同開発。
- 両社の出会いは、2019年10月開催の第1回KIX。2025年4月現在では、業界を越えた5社と連携。

PxDT/塩野義グループこれまでのあゆみ

出会いから3年半、共同研究開始から約2年で第1弾、約4年で第2弾製品化に成功。



10月：経団連KIXの場で出会う



9月：SHQ、SHC、PxDT
三社間業務提携契約発表



『Ageing Asia 2025 World Ageing Festival』
4月：TECHNOLOGY部門
グランプリ受賞



2月：共同研究開始

6月：共同事業に向けた
基本合意書の締結

4月：共同開発製品発売
4月：6社間連携発表

5月：共同開発製品
第2弾発売



経団連Startup Slack

活発なスタートアップ関連活動の結果、KIX登壇スタートアップ約340社、CVCネットワークingg会合出席CVC約50社、ほか各種スタートアップイベント共催パートナー等と幅広いネットワークを構築

スタートアップ・経団連会員企業・大学・VCなどによる
オンラインコミュニティ

「経団連Startup Slack」を2023年12月オープン
約600名が参加 (2025年10月時点)

経団連 Startup Slackでできること

- 経団連からの案内を直接タイムリーに受信
- 自由な情報発信、イベント・企画等の宣伝
- イベントへの登壇応募、連携・相談相手募集
- 行政の支援情報、お役立ち情報の入手

※ 1社あたりの登録人数上限なし、登録・利用費用無料

残された課題

国際情勢の変化により米国を中心に世界的に経済や科学技術の先行きに不透明感が高まっている今をむしろチャンスと捉え、日本は一貫してスタートアップ強化に取り組むことで世界における日本のエコシステムの相対的地位を向上させるべき

誘致

- 起業家、研究者、グローバルVC・アクセラレーターの資金・拠点、グローバル企業のアジアHQ・研究所の誘致

Science to Startup

- 大学の知の能動的掘り起こしを行うイグニッションチームの組成
- 大学における社会実装の評価の導入
- 実績のある海外VCがリードするプロジェクトやフェロースhipプログラムへの日本人研究者の参画の増加

資金

- グローバルマネーの呼び込み
- 未上場株セカンダリーマーケットの整備

人材

- アカデミア・産業界間の人材の流動化
- 日本人の海外留学（1年以上）と外国人留学生の桁違いの増加
- 国家レベルでの英語力強化
- 大企業の採用から経営層まであらゆるレイヤーの多様化

規制制度

- 公共調達におけるスタートアップのさらなる活用
- 規制改革関連制度の強化と周知、支援体制の確立
- M&A活性化

参考リンク

- スタートアップ委員会活動 特集ページ
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp.html>
- 提言「スタートアップ躍進ビジョン」 (2022年3月)
<https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/024.html>
- 提言「Science to Startup」 (2024年9月)
<https://www.keidanren.or.jp/policy/2024/060.html>
- 躍進ビジョンレビューブック2025 (2025年5月)
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/reviewbook2025.pdf>
- スタートアップフレンドリースコアリング
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp.html#scoring>
- 第3回スタートアップフレンドリースコアリングの結果概要 (2025年5月)
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/scoring-kigyo2024.pdf>
- Keidanren Innovation Crossing (KIX)
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/KIX.html>

お問い合わせ先

経団連 産業技術本部（スタートアップ担当）

venture@keidanren.or.jp

経団連スタートアップページ

